

行政報告

市議会12月定例会が12月5日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から主なものの要旨をお知らせします。

秋田わか杉国体の成功

平成8年に本市でのソフトテニス及びバレーボール競技の開催が内定して以来、高館テニスコート、樹海体育館の新規整備を含め、11年にわたり秋田わか杉国体の準備を進めてきましたが、9月30日から10月8日にかけて計画どおり開催することができました。



3位に輝いた成年男子9人制バレー

43億円余りを投じた両施設は、その機能を十二分に發揮し、実施本部229人、ソフトテニス連盟311人、バレーボール協会355人、ボランティア336人などが一丸となって大会運営に努力しました。

また、市民一人ひとりの参加で思い出に残る大会運営とするため、花壇の植栽やプラントの設置などの環境整備、競技参加者への手作りマスコットや特産品のプレゼント、他県選手への団体応援など、地域グループや各学校が主体となつて、それぞれに工夫を凝らした歓迎事業や大会の盛り上げにご協力をいただきました。

全国から訪れた選手、監督は、1147人、観客数は、ソフトテニス競技が4日間で1万1千人、バレーボール競技は4日間で2万5千人に上っています。期間中の経済波及効果は、2億7千万円以上と推定されますが、多くの企業に様々な形でご協力をいただきました。

本大会の成功は、議員各位を始め、競技関係者や多くの市民の皆さんのご支援とご協力によるものであり、ここに深く感謝します。

9月17日豪雨による被害復旧対策

災害復旧には、これまで予備費4220万円と、11月5日の臨時会で議決いただいた補正予算2億4480万円で緊急的な対応をさせていただきました。

本定例会には、農林業施設復旧工事費、農業経営復旧・再開支援事業費等で4818万円、公共土木施設復旧工事費等に1億5087万円、上水道事業では、中山川原浄水場応急復旧費1233万円、簡易水道事業では、真中ポンプ場施設復旧費9357万円、扇田病院ドック空調設備復旧費1289万円など、合計3億2068万円を補正予算に計上しています。

これを含めた災害復旧関連予算の合計は、6億1770万円となります。



犀川が決壊し、道路を寸断

雇用情勢 内定率は86・1%

10月末現在、市内の高校における来春卒業予定の就職希望者は259人で、うち県内希望者が110人であり、就職内定率は、86・1%と昨年同期を3・0ポイント下回っています。これをハローワーク管内別で見ると、大館管内は79・5%であり、県内では、鹿角、横手管内に続き3番目の高さとなっています。

次に、工場等設置促進条例に基づく指定工場の従業員数は、本年10月1日現在における指定工場数は60事業所で、その従業員数は4148人です。昨年同期より222人増加していて、これはニプログループによる継続的な設備投資と、それに伴う雇用の拡大が大きな要因です。

ニプロ株式会社大館工場では、今月中旬の拡張に合わせ、新規雇用を図る予定と伺っています。また、今月予定されているニプロファーマ株式会社の新工場棟の操業開始や、株式会社ホクトの進出に伴う新規雇用で、指定工場の従業員数はさらに増加するものと見込んでいます。

産業集積への取り組み

本市では、「資源リサイクル・医療関連産業」及び「木材関連産業」の集積に向け、関係市町村、各商工会議所や秋田大学などの関係機関とともに、企業立地促進法に基づく二つの「地域産業活性化協議会」を設置し、これらの協議会で策定した基本計画は、10月29日付けで国の同意を得ました。